

第 3 回北名古屋市市民協働指針策定委員会 報告

日 時 平成 24 年 10 月 22 日（月）18:30～21:00

場 所 北名古屋市役所 西庁舎 3 階 第 2 会議室

出席者 11 名 傍 聴 0 名

■第 3 回の概要

- ・他市の指針の良い点さがし
- ・前文に入れたいフレーズ・要素の検討
- ・たたき台の検討
- ・市民ワークショップのお題の検討

1. 他市の指針の良い点さがし

第 2 回の委員会で、「他市町村の指針で、北名古屋の指針づくりの参考になるものを探してくる」という宿題が出されたので、その共有をしました。

事務局より岩倉市と半田市の市民協働指針を紹介し、委員からは、常滑市と京丹後市の指針の紹介がありました。その後、どんな仕様の指針をつくりたいか意見交換をしました。



- ①岩倉市・・・隣の町なので比較しやすい。自治基本条例策定につながっているの、しっかり書かれている（⇔難しい）
- ②半田市・・・表現が簡単で、事例が多く、読みやすいものになっている
- ③常滑市・・・シンボルマークがあり、内容もボリュームが少なくシンプルでわかりやすい。イラストや写真があり、とっつきやすい。
- ④京丹後市・・・事例がたくさんあり、わかりやすい。

■どんな仕様にしたい？

- ・市民協働の定義については「市民協働まんが」を使い、指針はシンプルにする
- ・これから「やってみたい」人のハードルが低くなるもの ⇒「これなら私ができる！」と思うもの
- ・「協働」という言葉から入らず、キャッチフレーズをつくる = 堅い表現は避ける



2. 前文に入れたいフレーズ・要素の検討

もうひとつの宿題「指針の前文、キャッチコピーを考えてくる」について、共有し意見交換をしました。

■意見交換のまとめ

- ・「みんなの輪を大切に」「輪をつなげていきたい」など輪のイメージ
⇒合併してできた北名古屋市を、みんなが愛せるように。
- ・「きたなごや」をそれぞれ頭文字にしたキーワードを用いるなど、柔らかく、受け入れやすいように。
- ・「楽しさ」や「声をかける」ことで人が寄る&人がつながる、いろんなことが実現できる。
⇒助け合いにつながる。
⇒「わくわく」「楽しい」要素は絶対に必要。
- ・少子高齢化を伝えて危機感を持ってもらうほうがよいのか、楽しさを前面にだすほうがよいのか？
- ・「一歩外に出てみませんか」という呼びかけ（団塊の世代、男性の地域社会参加にむけて）
- ・世代別で物事を解決する。加えて世代を超えて協力し合う。

■岩崎先生のコメント

これまで、市民は現実を見る機会があまりなかったので、右肩下がりの時代が続けばどうなるかということは、きちんと説明したほうがいいでしょう。そのうえで、「行政任せにしていた公」から、新しく「公」をつくりなおしましょうと伝えていくことが大切です。かつてわたしたちが担っていた「小さな公」を、もう一度持ち寄ることが、協働の意義だと思います。

たたき台 9 ページに、協働の役割分担図が掲載されていますが、これをみんなで考え、つくりなおしていくことが大切です。

3. たたき台の検討

事務局が作成したたたき台をもとに意見交換をおこないました。

■意見交換のまとめ

該当部分		意見
全体		・今回作成するのは、第 1 版とし、現状と照らして無理のない指針を作成し、協働の進展具合によってバージョンアップさせていってはどうか。
第 1 章	人口と財政	
	市民の力を活かす	・市民が地域に責任を感じて取り組むと、どのような効果が生まれるか。
	協働という方法	・市民団体同士の協働の事例（それを行政がどう支援するか） ・市民協働の中でお金が発生することもある点を入れるか？ ⇔市の財政難を考えるとボランティア前提では？ ⇒団体側も会計の説明責任を（岩崎先生）

		⇒団体も力量を上げる機会に
第 2 章	協働の原則	・ お金のことをどういうルールで位置付けるのか？（岩崎先生） ・ タダでやってねということではない。
	行政の役割	・ 行政の仕事をやらせるために設立させた既存の市民団体に対し、急に行政が手を放し、自立をしろというのはよくない。 ⇒サポートしながら協働の担い手になるようにするべき。 ・ 行政は、団体を応援しながら協働の範囲を広げるべき。 ・ 行政は団体の苦しみを理解し、過程を大切にして団体とつきあうことが大切。
	市民団体の役割	・ プロセス・継続性を意識し、現役世代のメンバー、後継者を育てる ・ 今ある団体の継続性、新しい団体の育成を大切にする ・ 問題に、無関心な市民（地域参加が薄い男性）に根気よく呼びかける

○もっと検討するとよいこと

- ・ 「協働」という言葉を使うのか？
- ・ 市民ひとりひとりが自分の問題として受けとめてもらえるような伝え方とは？

（ひとりひとりの心に落ちるようなもの）

- ・ どうやってみんなが、市民協働に参加できるのか？



4. 市民ワークショップのお題の検討

11/4 に開催する市民ワークショップで、参加者の方に話し合ってもらおうお題について意見交換をしました。「団塊の世代への働きかけ」「女性の参加をどう促進するか？」「市民が求めていることは何か？」「北名古屋の現状を知っているか？どう思うか？」などの意見が出ましたが、参加者層として自治会や団体に所属し活動をしている市民が多くいることが予想されたので、あまり細かいテーマ設定はせずに、「自分たちの活動をどのようにしていきたいか」ということを話してもらうことにしました。また、委員の方から、話題提起としてお話をいただくことになりました。